

熱中症センサー「熱SEE(ネッシー)」 解析結果報告書

2025年11月19日
株式会社谷沢製作所

1. はじめに
熱See(ネッシー)は医療機器ではございませんので、本報告に関してはご助言として参考いただけますようお願いいたします。

2. 全体傾向分析 以下の結果を参照下さい

計測期間 2025年 5月 1日 ~ 9月 30日

測定台数 100 台

アラーム発報台数	1回以上発報した台数	57	台	表1	
	発報しなかった台数	43	台		

アラーム発報回数	総発報回数	170	回	表2	
	適切な休憩で回復した回数	150	回		
	休憩を取らず作業を続けた回数	20	回		

月別発報回数	月	回数	表3 時間帯						
			10	11	12	13	14	15	16
	5月	6		3			3		
	6月	15		5			10		
	7月	78	12	24		18	24		
	8月	56	17	12		12	9		6
	9月	15	3	6		3	3		
計	170								

現状報告	<ul style="list-style-type: none"> 表1, 表2から、熱中症に対する意識の高まりを感じます。 アラームが鳴ったら休憩される方が多い一方、休憩を取れずに危険状態が続いた人については、計画的かつ積極的な休憩が必要ではとされます。
傾向と対策	<ul style="list-style-type: none"> 表3から、アラーム発生数が増える10~11時と13~14時にスポットを当てて休憩等を積極的に取られることが、リスク低減に繋がると推測されます。
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 8月の16時台のように夕方、気温が下がり始めている環境下でも熱中症の症状が現れる点です。疲労による体温調節が難しくなっていると考えられます。休憩と共に経口補水液等の補充に注意して頂くことが望まれます。

3. 個別分析(環境温度と深部体温の事例)

下図は、8月11日(月)のAさん、Bさん2名の環境温度と深部体温の比較です。深部体温が38°Cを超えると熱中症の危険域に入ります。

- ①Aさんは、13:00~14:00までの約1時間、危険域に入った状態で仕事をしています。もう少し早めの休憩が望まれます。
- ②Bさんは深部体温が危険域に達する前に適切に休憩を取っており、好ましい状況で仕事をしています。

